

2023年11月6日 全8頁

消費データブック（2023/11/6号）

個社データ・業界統計・JCB消費NOWから足元の消費動向を先取り

経済調査部 エコノミスト 中村 華奈子

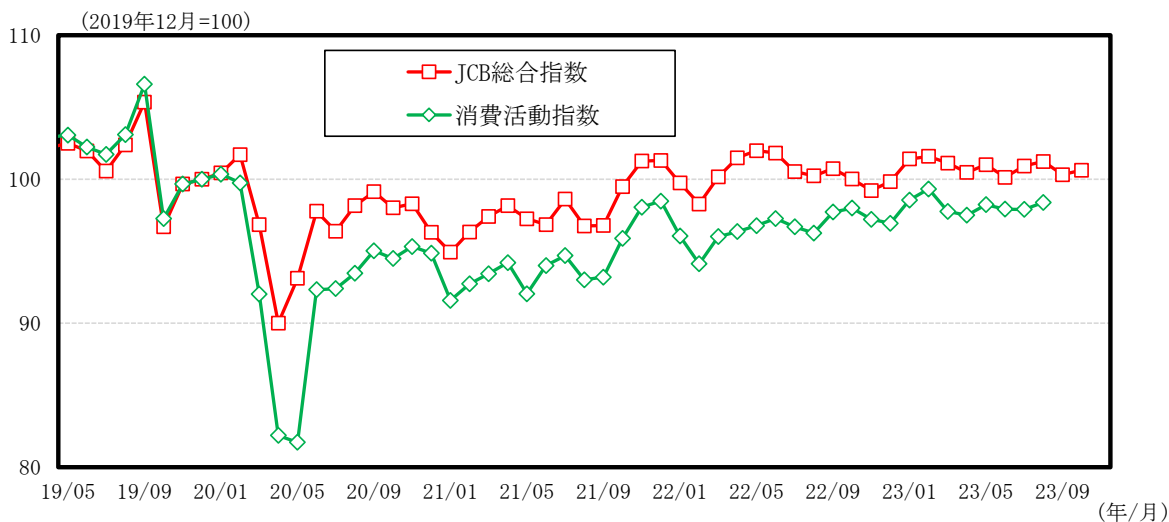
[要約]

- 2023年9月の消費は前月から小幅に減少した。財消費のうち、百貨店商品販売額やアパレル販売額は新型コロナウイルス感染拡大前の2019年同月比で前月からマイナス幅が拡大した。新車販売台数は前月から減少した（大和総研による季節調整値）。サービス関連のうち、新幹線輸送量や旅客機輸送量は2019年同月比で前月から伸び率が横ばいだった。宿泊者数や外食売上高は前月から伸び率が上昇した。
- 2023年10月の消費は前月から増加したとみている。消費増税前の駆け込み需要の反動減で19年水準が低い点には留意が必要だが、財消費のうち百貨店大手3社の既存店売上高やアパレル大手3社既存店売上高は、2019年同月比で前月から伸び率が上昇した。新車販売台数は前月から増加した。サービス消費のうち、東海道と山陽、九州新幹線の輸送量は2019年同月比で前月からマイナス幅が縮小した。宿泊消費額は前月から増加した。移動人口の動向を見ると、月下旬には2019年同月を5%程度上回って推移した。

<消費全体の動き>

- ◆【JCB 総合指数】 23 年 10 月前半の JCB 総合指数¹（大和総研による季節調整値）をもとに 10 月の実質消費額の伸び率を試算すると、前月比+0.3%となった。財の伸び率は前月から上昇し、サービスの伸び率は低下した。

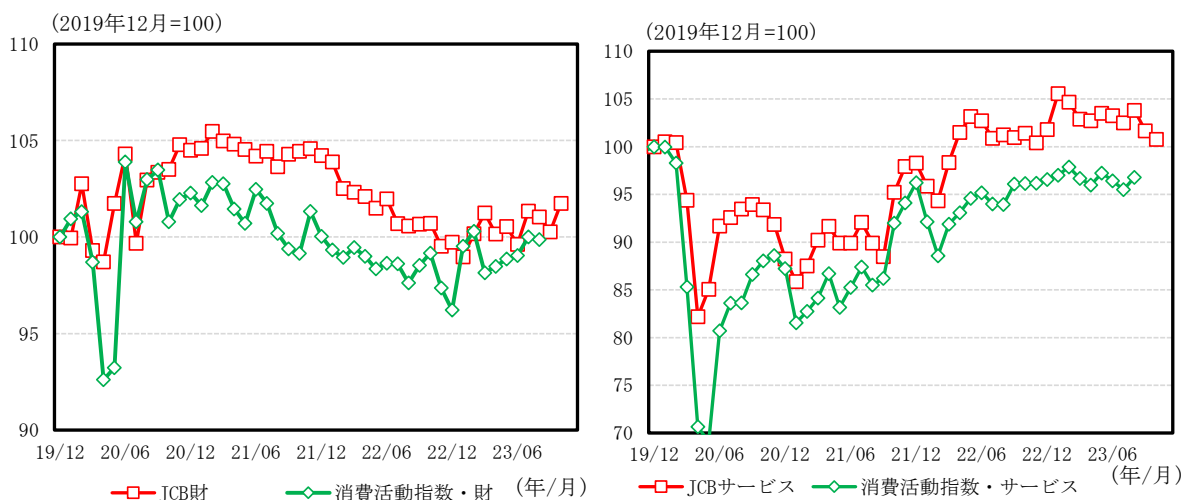
図表 1：消費活動指数・JCB 総合指数



(注) JCB 総合指数は大和総研による季節調整値。CPI で実質化。23 年 10 月分は月前半のデータをもとに伸び率を試算。

(出所) 日本銀行、総務省、株式会社ナウキャスト/JCB「JCB 消費 NOW」より大和総研作成

図表 2：財・サービス別に見た消費の動き



(注 1) JCB 財指数・JCB サービス指数は大和総研による季節調整値。CPI で実質化。23 年 10 月分は月前半のデータをもとに伸び率を試算。

(注 2) 財の消費活動指数は、当該指数の耐久財・非耐久財を形態別ウエイトで加重平均したもの。

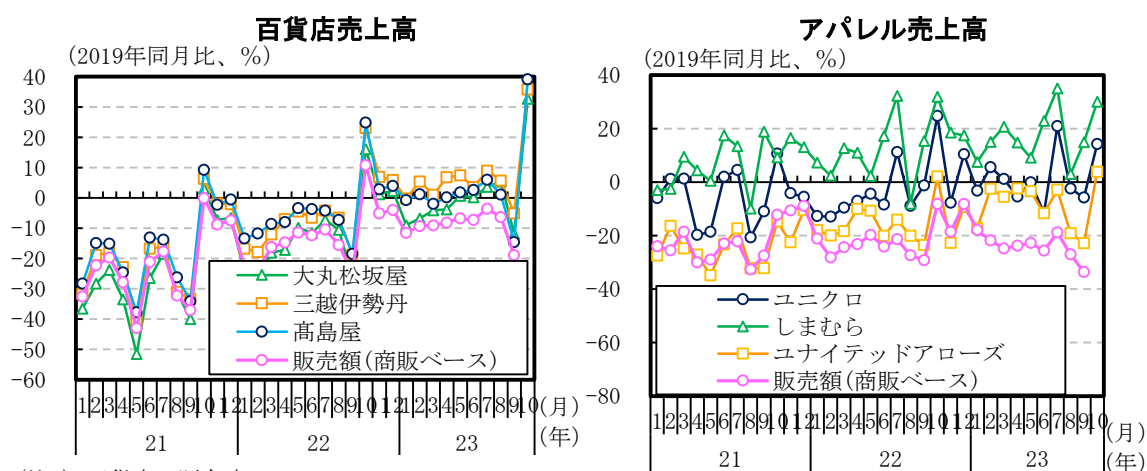
(出所) 日本銀行、総務省、株式会社ナウキャスト/JCB「JCB 消費 NOW」より大和総研作成

¹ JCB グループ会員の中からランダムに抽出された約 1,000 万会員を対象に、ナウキャスト社が作成・公表している消費指数。

<小売関連>

- ◆【百貨店】 23年9月の百貨店商品販売額は、新型コロナウイルス感染拡大前である19年同月比で前月からマイナス幅が拡大。10月の百貨店大手3社の既存店売上高は伸び率がプラスに転じ、同+30~40%程度。ラグジュアリーブランドなどの高額品が堅調も、消費増税前の駆け込み需要の反動減で19年水準が低い点には留意が必要。
- ◆【アパレル】 23年9月のアパレル販売額（商販ベース）は19年同月比で前月からマイナス幅が拡大。10月のアパレル大手3社既存店売上高は前月から伸び率が上昇。秋物や初冬物が堅調も、月を通して気温が高く推移し冬物の動きは鈍い。

図表3：百貨店・アパレルの売上高



(注1) 百貨店：既存店ベース。

(注2) アパレル：既存店ベース。ユニクロとユナイテッドアローズはネット通販を含む数値。

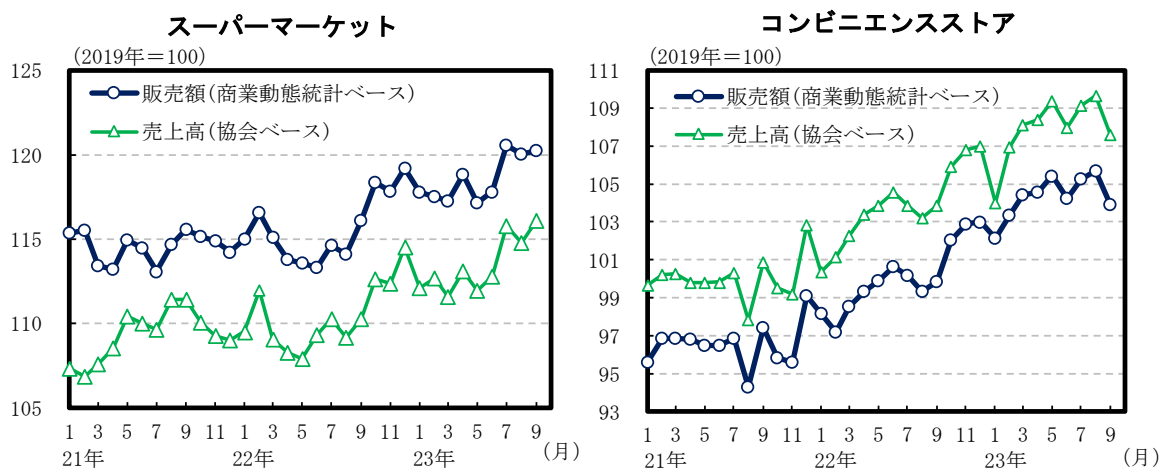
しまむらの各月の数値は前月21日から当月20日の集計値、20年10月以降はオンラインストア含む。

(注3) アパレル販売額(商販ベース)は、商業動態統計の「織物・衣服・身の回り品小売業」を参照。

(出所) 経済産業省統計、各社資料より大和総研作成

- ◆【スーパーマーケット】 23年9月の販売額は前月比+0.2%（大和総研による季節調整値）。飲食料品の販売額が増加。
- ◆【コンビニエンスストア】 23年9月の販売額は前月比▲1.7%（大和総研による季節調整値）。加工食品や非食品の販売額が減少。

図表4：スーパーマーケット・コンビニエンスストアの売上高

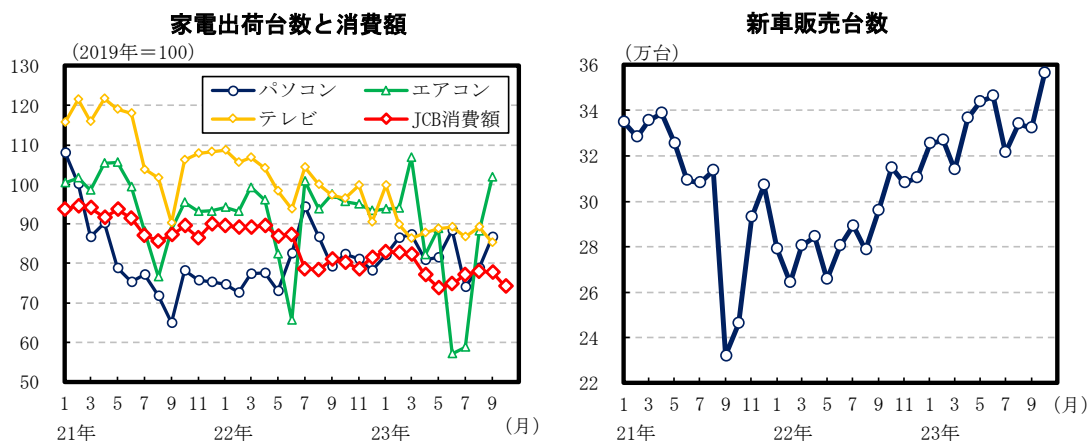


(注) 売上高（協会ベース）は既存店ベースの数値。大和総研による季節調整値。

(出所) 経済産業省、全国スーパーマーケット協会、日本フランチャイズチェーン協会より大和総研作成

- ◆【家電】 23年9月の出荷台数はエアコンが前月比+15.4%、パソコンが同+10.0%、テレビが同▲4.5%（大和総研による季節調整値）。10月のJCB消費額は同▲4.6%と前月から減少。
- ◆【自動車】 23年9月の新車販売台数は前月比▲0.6%（大和総研による季節調整値）。10月は同+7.3%と増加。販売台数は20年10月以来の高水準。

図表5：家電出荷台数と新車販売台数



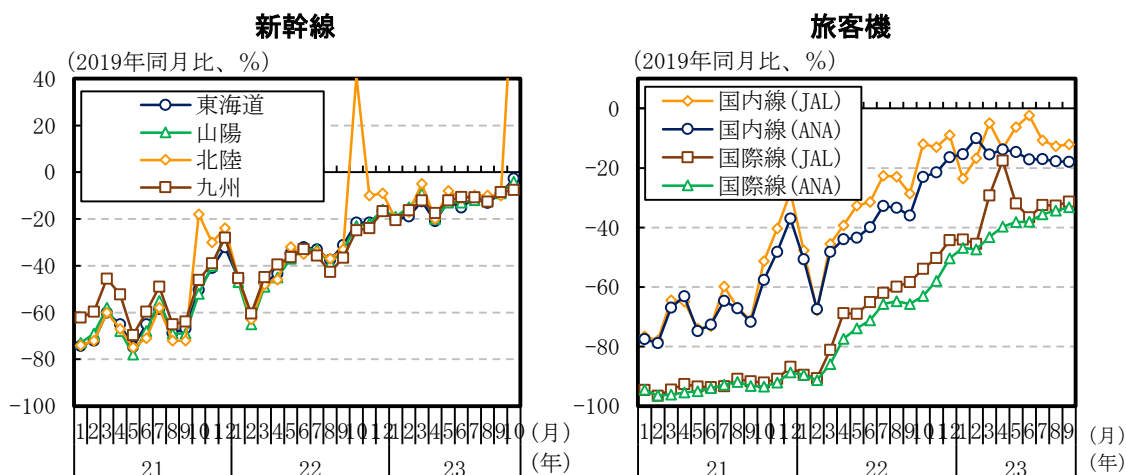
(注) 大和総研による季節調整値。JCB消費額はJCB「機械器具小売業」を指し、23年10月分は月前半のデータをもとに伸び率を試算。

(出所) 電子情報技術産業協会、日本冷凍空調工業会、日本自動車販売協会連合会、全国軽自動車協会連合会統計、株式会社ナウキャスト/ JCB「JCB消費NOW」より大和総研作成

<サービス関連>

- ◆【新幹線】 23年9月の輸送量は19年同月比▲10%程度。10月の輸送量は、北陸以外では前月からマイナス幅が縮小。北陸の輸送量は同+85%（速報値）。19年同月は台風19号による浸水被害の影響で水準が低いことが原因とみられる。
- ◆【旅客機】 23年9月の国内線輸送量は19年同月比で▲20%～▲10%程度、国際線輸送量は同▲30%程度と伸び率は前月からほぼ横ばい。航空各社は年末年始の旅行需要や訪日需要の回復を受けて、国内線、国際線ともに旅客便の供給量の拡大を発表。

図表6：新幹線・旅客機の利用状況

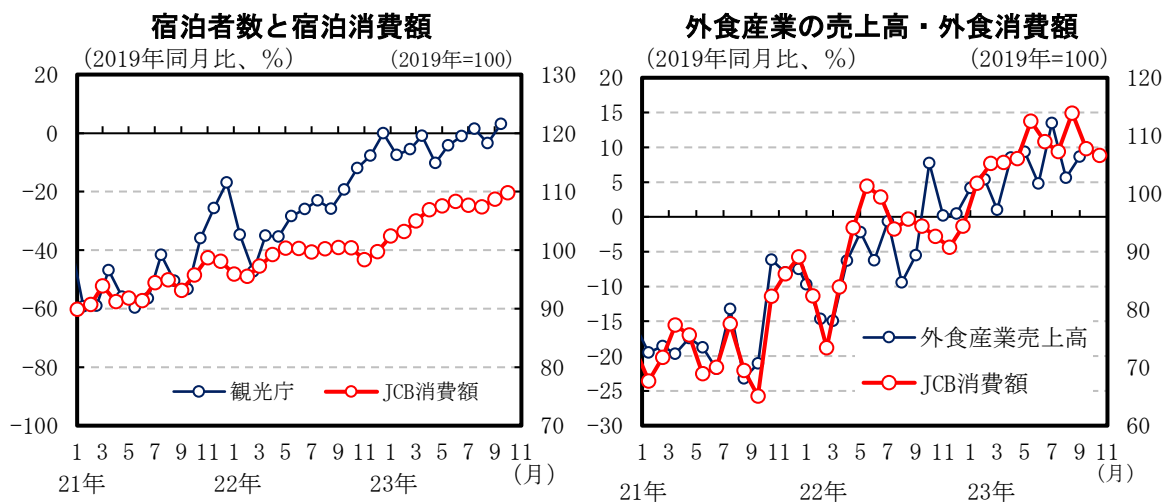


(注) 23年10月の東海は29日、山陽と北陸は28日、九州は23日まで。JAL・ANAのデータはグループ会社を含む。

(出所) JR東海、JR西日本、JR九州、JAL、ANA資料より大和総研作成

- ◆【宿泊】 23年9月の宿泊者数（観光庁、宿泊日数ベース）は19年同月比+3.1%と伸び率がプラスに転じた。10月のJCB宿泊消費額は前月比+1.0%と前月から増加。
- ◆【外食】 23年9月の外食産業の売上高は19年同月比+8.7%と前月から伸び率が上昇。10月のJCB外食消費額は前月比▲1.1%と前月から減少。

図表7：国内宿泊者数と関連消費額（左）、外食産業の売上高と関連消費額（右）

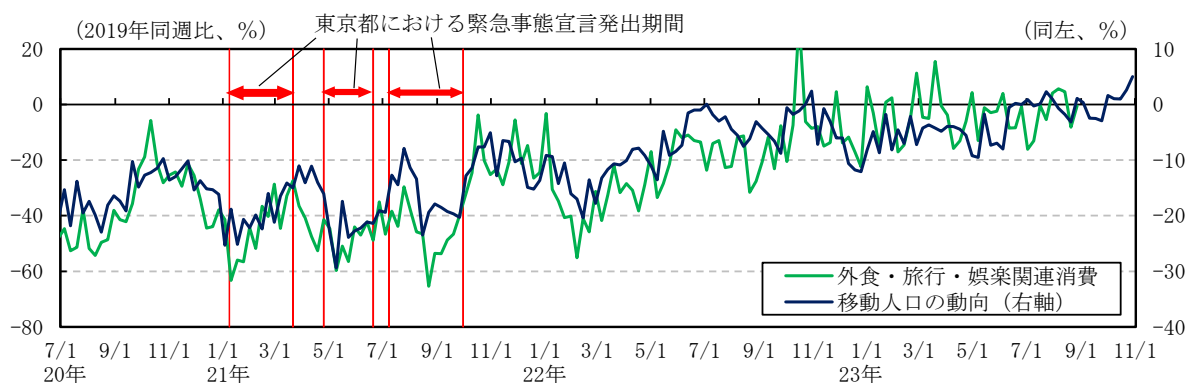


(注) 23年10月分のJCB消費額は月前半のデータをもとに伸び率を試算。観光庁統計は宿泊日数ベースのデータを用いている。

(出所) 観光庁、一般社団法人日本フードサービス協会統計、株式会社ナウキャスト/ JCB「JCB消費NOW」より大和総研作成

<参考：移動人口の動向>

図表 8-1：外食・旅行・娯楽関連消費と移動人口の動向（直近値 10/29）

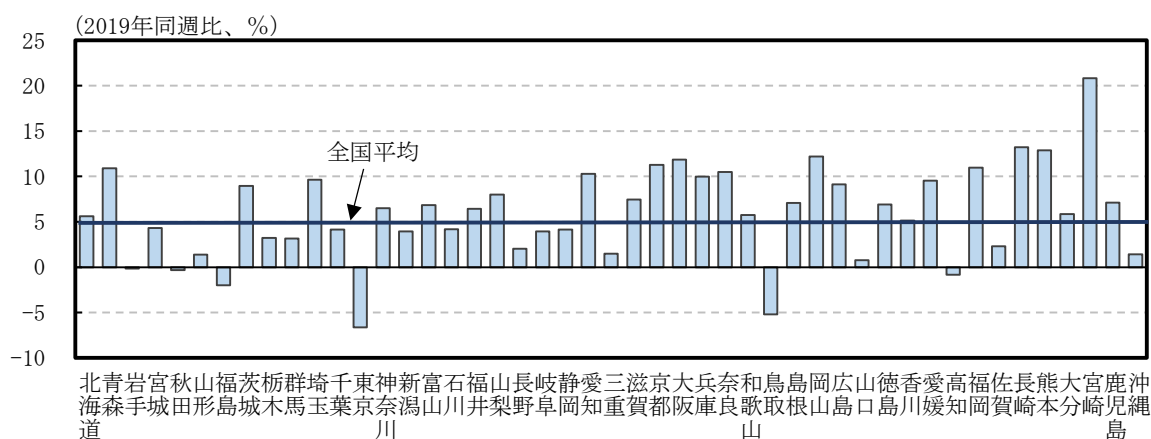


(注) 移動人口は全ての市区町村の「推定居住地が市区町村外のものの人口」を週ごとに集計したもの。

外食・旅行・娯楽関連消費は「外食」「交通」「教養娯楽サービス」の合計値。

(出所) 総務省統計、V-RESASより大和総研作成

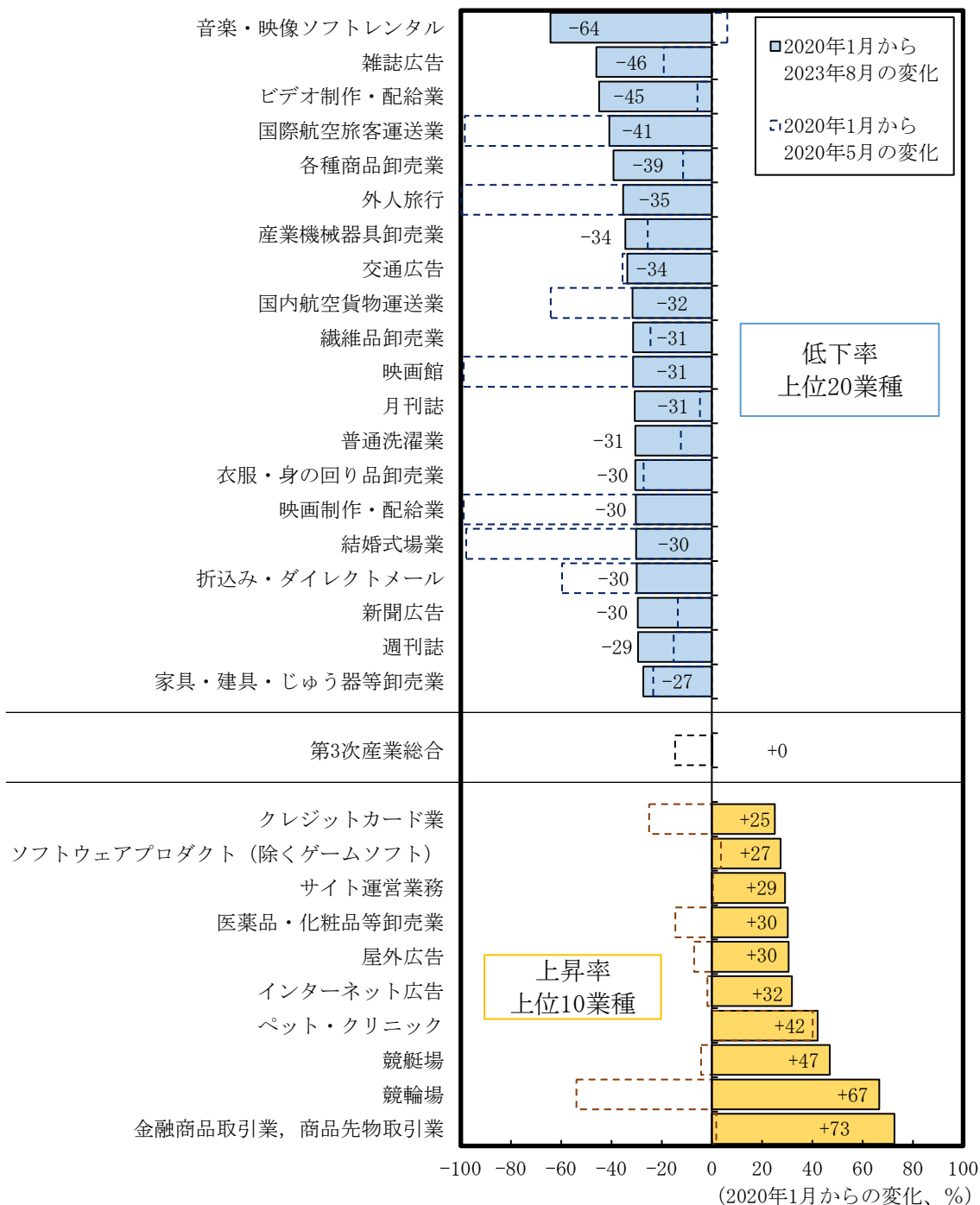
図表 8-2：移動人口の動向（10/23～10/29 週、都道府県別）



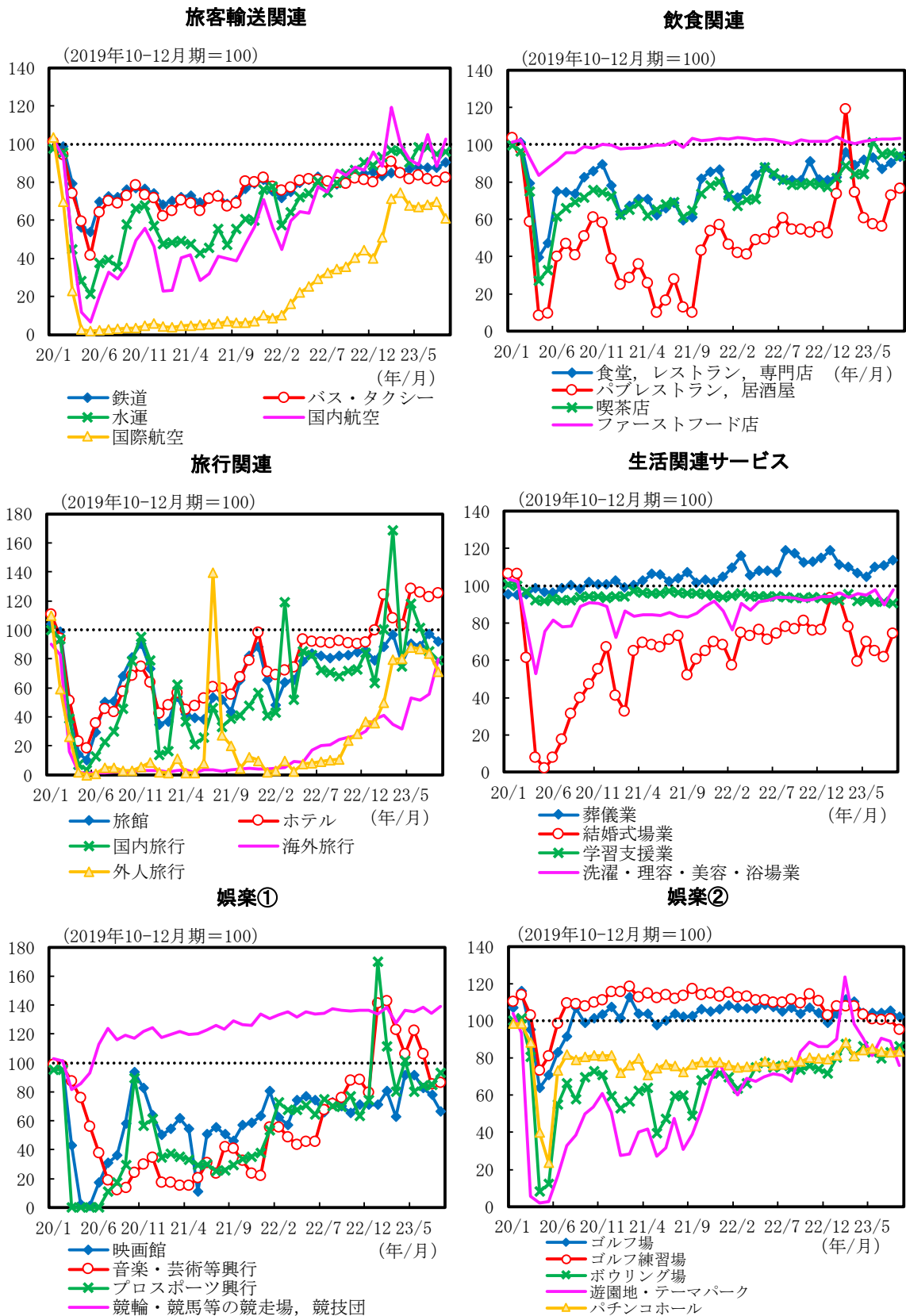
(出所) V-RESASより大和総研作成

<参考：第3次産業活動指数>

図表 9-1：第3次産業活動指数（2023年8月）



図表 9-2 : 運輸業・生活関連サービス業における活動指数の推移



(出所) 経済産業省より大和総研作成